

# 登山月報

ジュニア登山教室 in 立山開催	1
新連載 Mountain World 第22回	3
UIAA 医療部会報告	4
第13回 JOC ジュニアオリンピックカップ報告	5
第54回全国高等学校総合体育大会登山大会	7
平成22年度無雪期レスキュー講習会	8
JMA、寄贈図書、編集後記	9

## みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山を開催 てっぺん目指してワイワイ登ろう

50周年記念行事である「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山」が、8月9日～12日にかけて国立登山研修所との共催で富山県山岳連盟の協力を得て、国立青少年自然の家をベースに行われた。当初の募集人員には達しなかったが、全国（6都県）から29名（男子20名、女子9名）の子供たち（小2～中2）が参加し、病気や怪我もなくほぼ計画通りに無事終了した。

日山協からは、本木副会長、西内、仙石常務理事、佐伯、大西、篠原常任委員、佐藤常務理事夫人が全日程参加、田中会長が11日から参加された。登山行動及びクライミング体験では、富山岳連から松本会長ほか6名の講師が参加した。

9日午後2時に自然の家に現地集合で始まった。東京からの参加者は、新宿西口に集合し、バスで参加した。

受付後、開校式を行った。国立登山研修所渡邊所長より、「自然の中で、活動すると頭が良くなる」という子供たちにもわかりやすい言葉で、ご挨拶をいただいた。

その後、オリエンテーション、班編成を行い、施設内「トントンの森」で班別のゲームを行った。森の中のコース途中には、周囲の動植物に関する質問もあり、皆で考えることで、班内お互いを知り合う

良い機会となったようだ。夕食後は、翌日の登山に備え、コース毎に注意事項、準備などを行い就寝。

二日目（10日）は今回の中心となる登山行動で、子供たちも若干緊張気味だったが、バスで室堂に向かう途中では、佐伯常任委員からの立山杉の巨木などの説明や車窓からの景色に見入っていた。天気を気にしつつ室堂で準備体操後、A（雄山、大汝山登山）、B（室堂乗越）、C（室堂自然観察）の各コースに分かれた。

Aグループ：立山の中心となる登山コースだけあり、途中では他の登山者や学校登山グループも多く、登山ペースも乱れがちだった。20名の大人数の登山であったが、途中の雪渓も注意して通過し、グループ内足並みの違いはあるものの全員が大汝山(3015m)の山頂に立った。雲の合間から周囲の景色を眺めつつ、昼食をとる頃から雨模様になり、雨具をつけ早々に下山開始。途中では雷鳴や、雨も強くなりずぶ濡れで室堂着。子供たちは、ザックの中までぬれてしまい、この雨の洗礼も登山の良い経験となった。

Bグループ：6名での行動だったが、登山に入る

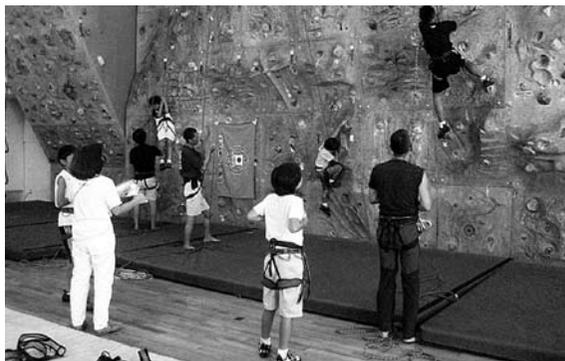


前はCグループと一緒に室堂での自然観察や、日本最古の山小屋「立山室堂」、玉殿岩屋を見学した。その後、Cグループと分かれ登山行動に移った。みくりが池から雷鳥沢キャンプ場へ下る頃から小雨がぱらつき、雨具を着用した。雷鳥沢キャンプ場でトイレ休憩、水の補給を行った。この頃は雨もやみ、キャンプ場を後に稜線を目指した。稜線からの剣岳の雄姿を期待したが、ガスのため見えず、天気も良くないことから先へ行くことをやめ、剣御前分岐の新室堂乗越付近で昼食。再び雨となり雨の中で昼食をとった。下山は、雷鳥沢キャンプ場から、地獄谷を経由して室堂着。室堂では、自然保護センターを見学し、バスに戻った。

Cグループ：3名の少ないグループだったが、自然保護センターの方に講師をお願いし、室堂平の植物などの解説を受けた。珍しいピンクのチングルマ、タテヤマリンドウなどの植物を観察しつつ、「立山室堂」、「玉殿岩屋」を見学、洞窟入口の珍しいイワヒゲ、付近の板状節理の岩も観察した。その後、唯一Cグループだけが、みくりが池付近で雷鳥を見ることができた。室堂に戻り、自然保護センターを見学し、室堂ターミナルに戻った。

全員が揃う頃は雨も強くなり、バスの運行に支障が出始め、足止めとなった。雨も小降りになり、運行が始まったが、美女平から先は通行止めのまま開通を待った。開通の見通しがつかないため、急遽、バスを置いてケーブルカーで下山を決定した。子供たちには、予定外のケーブルカー乗車が楽しかったようだ。立山駅に自然の家のバスを出してもらい、宿舎に戻った。乾燥室で濡れたものを干し、夕食。予定のキャンプファイヤーは延期し、環境学習として山のゴミをなぜ拾うのかと、地球温暖化防止のために何が出来るかを考えて話し合いました。また行きたい、登山はいやだなどの感想もあり、子供たちにとって今日の体験は印象に残るものだったようだ。

三日目(11日)の午前中は、「立山ひょうたん」の工作を行った。それぞれ思い思いのデザインのひょうたんを見せ合い記念の品になった。午後からは、国立登山研修所でのクライミング体験、立山カルデラ砂防博物館見学を行った。クライミング体験



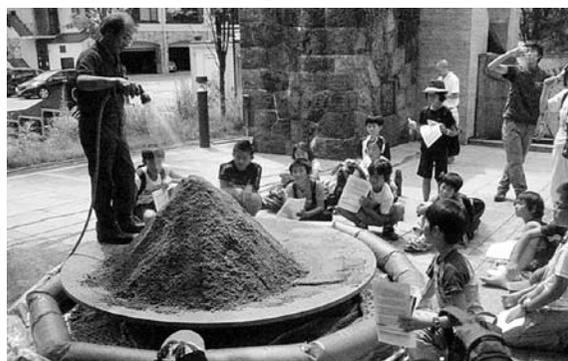
では、大部分が初めての体験であったが、センスの良い子も多く2時間の体験時間が短いくらいだった。立山カルデラ砂防博物館では、カルデラの由来や、立山の土砂災害発生の仕方を実験で学び、見学を行った。カルデラを再現した大型地形ジオラマ、アニメ化した昔の災害の経過やトロッコツアーの疑似体験など、興味は尽きないようだった。夜は、台風の影響で風もあったが、前日延期したキャンプファイヤーを、時間を短縮して行った。田中会長も参加され、西内常務理事扮する火の神の点火で始まり、ゲームや歌でひと時をすごした。

最終日(12日)、閉校式では国立登山研修所渡邊所長、日山協田中会長のご挨拶、西内常務理事からの講評の後、田中会長より一人一人に修了証が手渡された。外に出て全員の集合写真を撮り、最後の予定である称名の滝見学の予定であったが、前日の雨により道路が閉鎖されたため、立山博物館見学に変更。その後、立山駅で解散し、全行程を終了した。

今回初めての全国規模のジュニア登山教室は、学校での団体生活とは異なった、お互い知らない者が集まっての3泊4日の団体生活であったが、自然の中での活動は、人への思いやりや、子供たちの仲間意識の醸成にも役立ったのではないかと感じている。

参加者からは来年も参加したいという声もあり、リピーターだけではなく、来年は、もっと多くの地域からの参加者を得て、開催を継続したいと考えている。

(文責：ジュニア・普及委員会 仙石 富英)



### 大韓山岳連盟 呉銀善を否定

池田常道

女性初の8000m峰14座をめざしていたオ・ウンスン（呉銀善、44、韓国）が4月27日、アンナプルナI峰（8091m）に登頂して目標を達成したニュースを5月号本欄（第18回）に書いた。その記事の末尾に彼女のカンチェンジュンガ登頂（昨年5月）が疑われているという話を付け加えたのだが、3ヶ月が経過したいま、この問題が意外な展開を見せている。

記事を執筆した当時はまだ材料も少なく、疑問の出所がもっぱらライバルだったエドゥルネ・パサバンの母国スペインであったこともあって、なんとなく灰色といった趣にとどまっていた。しかし今回は、母国の大韓山岳連盟までもが疑問を呈したのだから事は重大だ。

同連盟は過去のカンチ登頂者を中心とする7人（パク・ヤンソク、オム・ホンギルら14座完登者を含む）を招いて長時間の検討会議を催し、8月26日に「登頂を認めるのは難しい」という結論を下した。カトマンズのヒマラヤ登山史家エリザベス・ホウリー女史が5月に呉のインタビューを踏まえて表明した「論争中／未解決（disputed）」より一段ときびしい判定だ。呉自身もこの会議に出席して弁明するよう要請されていたが、準備がととのわないことを理由として欠席した。しかし、朝鮮日報電子版の報道によれば、彼女は会議に出た14座完登者の頂上写真を要求し、それと比較すれば自分の正当性が証明されると主張したようだが、連盟がとりあわなかったのだという。

討議された疑問は、これまでも報じられてきたように以下の諸点である。すなわち、

- (1)疑わしい頂上写真
- (2)下から目撃された時刻・地点と登頂したとする時刻の矛盾（あまりにも早すぎる）
- (3)同行したシェルパの見解の相違（ダワ・ウォンチュクは最高点に立ったと証言し、ヌルブは約1時間手前で引き返したと主張、3人目はなにもコメントしていない）
- (4)頂上に置いてくるはずだった旗のありか（後続パーティがかなり手前で見かけていた）

頂上の証拠写真は彼女のスポンサーであるブラックヤクが公表したもののだが、呉は「頂上は強風だったので10～15m下まで降りて撮ったもの」だという。写真（5月号参照）を見るかぎりかなり怪しいショットであることはたしかだが、これについては、さらに重大な疑惑が提起されている。その画像はフォトショップで加工されていたというのだ。韓国のTV、SBSが放映したドキュメンタリー「それが知りたい」によれば、元の写真には（頂上に置いてくるはずの）旗が彼女のウェアからはみ出しているのが写っていたのでそれを消したのだという。デジタル画像であれば、撮影時刻を含めた詳細なデータがあるはずで、オリジナル画像とその（偽りのない）データが早急に公表されてしかるべきではないだろうか。

画像を加工したということは、写真が撮られたのは、のちに他のパーティが旗を発見した地点よりもっと手前だったということになるのか。ブラックヤクは「旗は彼女が頂上へ行く途中で失くした」としているが、頂上から風に飛ばされてそこらへんに引っかかっていたとでもいうつもりなのだろうか。（なお、問題の旗は韓国国旗ではなく、彼女の出身校山岳部の旗だった）

エリザベス・ホウリー女史は非公式に彼女に告げたという。「もう一度カンチに登って疑惑を晴らすのが最上の策です」と。カトマンズでのインタビューを終えるにあたって「おめでとう」といって握手して別れたというけれども、それは呉のカンチ登頂に関する疑問が晴れたからではなかったのだろう。実際のところ、呉にさきだって14座完登を成し遂げたパク・ヤンソクもオム・ホンギルも、疑惑をもたれた1座をのちに登りなおしたからこそ、いま胸を張って14座完登者となった。

カンチ登頂を証明する証拠を集めたらあらためて記者会見すると伝えられる呉だが、そこでどんな「新証拠」が提示されるのか。かつて、トモ・チェセンがローツェ南壁単独初登攀の証拠を他人の写真で捏造したような泥試合は御免こうむりたいというのが正直な感想だ。

呉のカンチ登頂が否定されれば、女性初のタイトルはパサバンのものになるわけだが、無酸素かつシェルパなしで8000m峰を登り続けてきたゲアリンデ・カルテンブルナー（13座）やニヴェス・メロワ（11座）にとっては、そんなことはどうでもいいことで、さっさとフェアな競争にもどりたい、というのが本音なのではないか。

## UIAA 医療部会の会議報告ならびに UIAA/IKAR/ISMM 医療部会合同会議の報告

8月8日午前9時から正午までペルー・アレキパのサンタマリアカソリック大学で標記会議が開催された。今年にはISMM (International Society for Mountain Medicine) の第8回国際登山医学会がこの大学で8月9～13日の5日間にわたっておこなわれるのに先立っての開催である。部会長であるネパールのBuddha Basnyat がビザの関係で欠席、議長は英国のDavid Hillebrandt が代行した。出席者はスイス、オーストリア、オランダ、伊、チェコ、カナダ、アルゼンチン、ベルギーおよび日本からの合計11名で、松林日山協医科学委員にはオブザーバー参加をお願いした。なお、同日午後3時から5時まで同会場でUIAA/IKAR/ISMM MedComの合同会議が開催された。

先ず今年の会議議事録から、UIAAが支持しているMedexの小冊子「Travel at High Altitude」は8ヶ国語で発行されている (e-mail で紹介したことがあるが、www.medex.org.uk でダウンロード可能) こと、アコンカグア登山の問題 (科学的根拠がないにも拘らず、動脈血酸素飽和度と血圧値でAMS/HAPE/HACEの判定をしている事実に対して説明を求めている) は

その後進展しておらずアルゼンチン国立公園当局からの回答は得られていないと報告された。また、商業登山やトレッキングに関して業者にUIAA Medical Commission としていわゆる「おすみつき」や「Safety Label」を発行するという課題は今後も検討することになった。

UIAA MedCom のガイドラインについて、昨年までに18本のガイドラインが完成し数カ国に翻訳されて website で読むことが出来る。現在5本が完成に近い。スイスのUrs Heftiから提案されたドーピングの問題は継続検討することとなった。低酸素環境での作業へのアドバイスについて多くのUIAAメンバーはガイドラインとすることに疑問を持ったとの報告があった。これについては当日欠席したドイツのThomas Kaepferからe-mailで反論あり。堀井は個人的には、南米の高所にある鉱山や天文台に日本人を派遣する団体から登山医学会に相談を受けたこともあり、意味のあることと思っている。

日本に課されているテーマ「Non-Caucasianと高所」については現在研究中の松林委員から若干の問題提

## 社団法人 日本山岳協会創立 50 周年おめでとうございます。

弊社では貴会の創立 50 周年を記念しましてパルスオキシメータ (経皮的動脈血酸素飽和度計) "パルスフィット BO-600" を格安の値段で提供させて頂いております。

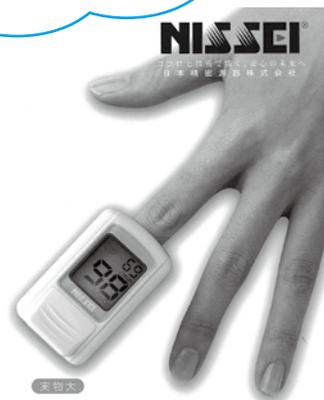
ご希望の方は、最寄りの郵便局から下記の郵便振替でお申込み下さい。入金が確認され次第、品物をお送りします。

【郵便振替】

口座記号・番号：00110-5-546693

加入者名：社団法人日本山岳協会

2万円! ポッキリ



田中産業株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-16-3 電話：03-3814-7181

起がされた。新しいガイドラインのテーマとしてVol.13で取り上げられている“心疾患を持つ人”を掘り下げて検討すること、さらに呼吸器疾患や糖尿病についても検討したいと伊から提案があり賛同が得られた。

DIPLOMAに関して、すべての国が取り組んでいるわけではないので、David Hillebrandt とJohn EllertonがUIAA/IKAR/ISMMの登山医学課程の内容をUIAAのウェブサイトに掲載することを先ずおこなうこととなった。現在10の基礎的DIPLOMAコースが進行中であり、新たに北欧、ネパール、北米からの申請が期待できる。日本は本年5月にスタートし45人が参加したと報告。DIPLOMAの基準を維持する必要性が議論されたが、特殊かつ高度な登山技術を求めることはこの制度を申請することの妨げになることも考慮に入れる必要があること、高度な技術よりもむしろ適性を重要視するとの意見も述べられた。

例年おこなわれる各国からの「Country Reports」は今回時間の都合で事前に議長にメールで送ることになった。堀井は日本山岳協会が創立50年の記念すべき年で、様々なイベントがおこなわれていること、日

本登山医学会が創立30周年であることおよび、本年5月から日山協や日本ガイド協会の協力の下に国際山岳認定医制度を発足させ、座学および実技の研修会を実施していることなどを報告した。

午後のJoint Meeting にはUIAA MedCom のメンバーにIKAR および ISMM MedCom のJohn Ellerton (英)、Ken Zafren (USA)、Inigo Soteras (スペイン)、Theoharis Sinifakouli (ギリシャ) が加わり、DIPLOMAに特化した議論がなされた。DIPLOMA制度の運営と見直しに関わるワーキンググループはUIAAとIKARの各会長、各医療部会長にISMM医療部会からの1名、計5名が構成メンバーで、今後この体制を続けることになった。ワーキンググループの検討課題として、①認定の期間、申請、更新等の見直し、医学および登山の講義要旨内容の質的管理 ②最低限要求される登山技術 ③websiteへの情報公開の三点が挙げられ、これらが今後の発展へのキーであることを確認した。

(医科学委員会委員長 堀井 昌子)

## 第13回 JOCジュニアオリンピックカップ 男子は“本命”新田龍海、女子は“新星”竹内彩佳(14)が総合優勝

第13回JOCジュニアオリンピックカップが8月13日～15日、富山県南砺市の桜ヶ池クライミングセンターで開催された。この地での開催は第4回大会からなので、ちょうど10回目となる。

男子総合優勝は予想どおり、神奈川の新田龍海。女子は大本命・小田桃花がワールドカップの調整を優先させ欠場。優勝は、昨年の覇者・尾上彩を本命として、大田理姿、飯田あづみ、安田あとり、この4人のうちの誰かであろうというのが大方の予想であった。ところが、その予想を覆す新星が登場。千葉の弱冠14歳、竹内彩佳である。

予選は2本のルートのフラッシングで行なわれた。こ

れはワールドカップの予選でも行なわれている方式で、人数が多くアイソレーションエリアを確保できないという理由から採用されている。他選手の登りを見ながら、チーム、仲間で対策を検討するなど、よりリラックスした状態で参加できるという利点もあるだろう。

女子予選は、2本ともリーチの必要な核心部をもつルート(5.11dと5.12a)で、身長145cmの竹内にとっては厳しいものとなった。1本はなんとかこなしただけで、もう1本はそこを抜けることができなかった。結果、このルートは尾上しか完登できなかった。

決勝は手数が多く、かつ長いルート(5.12c)となった。通常の前傾壁を登りきり、そこからさらに隣の壁に移るという設定だ。隣の壁に移ることができたのは、竹内、尾上、大田、飯田の4人。そして全員が、ほぼ同じ箇所まで力尽きる中ひとり竹内が一手先を行き、優勝を決めた。

男子決勝(5.13b)も上部で隣の壁に移る設定。そしてここに達したのは、新田、樋口純裕、藤井快(こころ)、村井隆一、島谷尚季の5人のみ。実質、完全に移ることができたのは新田ひとりであった。

大会終了後、9月にイギリス・エジンバラで行なわれる世界ユースのメンバーが発表され、3日間の熱い戦いに幕が下ろされた。

(競技部常任委員 北山 真)



【結果】

\*男子ジュニア

- ①新田 龍海(神奈川)
- ②樋口 純裕(佐賀)
- ③藤井 快(静岡)

\*男子ユースA

- ①村井 隆一(千葉)
- ②渡部 桂太(三重)
- ③津守 暁斗(山口)

\*男子ユースB

- ①島谷 尚季(千葉)
- ②是永敬一郎(埼玉)
- ③塚田 遼河(茨城)

\*男子アンダーユースB

- ①野村真一郎(茨城)
- ②飯田 譲(千葉)
- ③波田 悠貴(埼玉)

\*女子ジュニア

- ①長谷川美玲(群馬)
- ②小川 弥生(東京)
- ③重永 織江(山口)

\*女子ユースA

- ①大田 理姿(山口)
- ②飯田あづみ(千葉)
- ③沼田ほあし(茨城)

\*女子ユースB

- ①竹内 彩佳(千葉)
- ②尾上 彩(埼玉)
- ③五月女美元(栃木)

\*女子アンダーユースB

- ①野中 生萌(東京)
- ②小武 芽生(北海道)
- ③義村 萌(三重)



GPS登山地図

**Gnavi** 「GN-01」  
パソコン用デジタルマップ標準装備

「道迷い遭難」には登山用GPS



登山地図4,342面を収録

<http://svgnavi.jp/>

携帯電話auでGPS登山ガイド

**山と写真ガイド**  
豊富な登山と写真記事を掲載

圏外で使えるケータイGPS



au携帯電話より登山  
全119エリア等高線地図

<http://yamanavi.jp/>

# 第54回全国高等学校総合体育大会登山大会報告 『晴天届く君の風みなぎる闘志が夏に輝く』

全国の山を愛する高校生が集まるインターハイ。今年は8月6日から10日にわたって、「晴天届く君の風みなぎる闘志が夏に輝く」のスローガンのもと、鹿児島・宮崎の両県にまたがる霧島連山を会場に大会が開催された。

霧島は、昭和9年に雲仙、瀬戸内海とともに日本で初めての国立公園に指定された景勝の地であり、日本百名山にも選ばれている。

今大会では3つのコースが設定された。霧島神宮をスタートして樹林帯を歩き高千穂河原、そして高千穂峰を往復する高千穂峰コース。高千穂峰は天孫降臨神話の山で頂上には「天の逆鋒」がある。また坂本龍馬が妻おりょうと登り、これが日本で初めての新婚旅行ということでも有名である。

また、林田温泉から古道を歩き大浪池、韓国岳と登り、えびの高原へと下り池巡りを楽しむ韓国岳コース。韓国岳は標高1700メートル、霧島連山最高峰で韓（から）の国まで見えたという眺望のよい山である。

そして、新しい火山の中岳から新燃岳、獅子戸岳、龍王岳などの山々を縦走する中岳コース、春にはミヤマキリシマのピンク色で全山が染まる美しい山々が魅力である。

今大会は直前まで様々な問題が山積した。4月後半から宮崎県で口蹄疫が発生し様々なイベントや大会が中止となり、一時は開催が危ぶまれた。またそれに追い打ちをかけるように、7月に入り新燃岳の噴火レベルがレベル2に上がった。これに伴い専門家から「中岳コースは使用すべきではない。」と指摘があり急遽コースを変更せざるを得なくなった。これによって中岳コースは使用せず、大浪池を東、西と回るコースなどに変更した。しかし開催地の環霧島実行委員会、それに地元の山岳会の協力によっ



て大会が成功したことは喜びの至りである。

開会式は8月6日霧島市の牧園アリーナで実施された。日山協田中会長からは「高校生のみなさんが一生懸命この霧島の山に登ることができること、これは家族やたくさんの人々に支えられているからです。このことに感謝して下さい。またいつまでも山に登り続けて、山を愛して下さい。」と挨拶があった。

この後、歓迎のことばや選手宣誓と続き開会式は終了。登山隊の編成が行われた。C隊（種目男子縦走）とD隊（総監督隊）は残念ながら今年度で最後である。そして最初の審査課題テスト。4人のメンバーがそれぞれ救急知識、自然観察、気象知識、天気図作成と熱心に取り組んでいた。

その後、隊ごとにバスでそれぞれの幕営地へと移動。テント設営、炊事、医薬品チェックなどの審査が続いていく。選手にとっては気の抜けない3日間の始まりである。

翌朝からは4時起床でそれぞれの隊で登山行動がスタートした。大会中の霧島の天候は非常に変わりやすく、晴れていたかと思うと霧のように雲が流れてきて突然雨が降り出す、しかし下界は晴れていて桜島が雲の切れ間に垣間見えるような不思議な天気



だった。特に高千穂峰へと続く御鉢の馬の背と呼ばれる火口縁は風がとても強く、山頂に行けない隊もあったのは残念であった。また大会最終日には台風も接近し行動中止も心配されたが何とか最後まで歩けたのは幸いであった。

このような不安定な天候であったが各県の選手たちは、事故や病気もなく、あるいは明るくあるいは黙々と山を元気に歩き、閉会式を迎えられた。さすが全国大会に出場するチームである。最後に環霧島実行委員長の前田霧島市長のあいさつ、「今回は新燃岳に登れず、また晴れず景色がよくなかったのが残念。あなた方には宿題があります。またこの霧島に、龍馬は未来のおりょうを、おりょうは未来の龍馬を連れて来なさい。」とあったのが印象的であった。

以下、大会3位入賞校を紹介する。

A 隊	1 位	長崎北陽台	C 隊	1 位	防府（山口）
	2 位	富士宮西		2 位	秋田
	3 位	修道（広島）		3 位	藤枝東（静岡）
B 隊	1 位	富士宮西			
	2 位	千葉東			
	3 位	真岡女子（栃木）			

（ジュニア担当常務理事 谷口浩平）



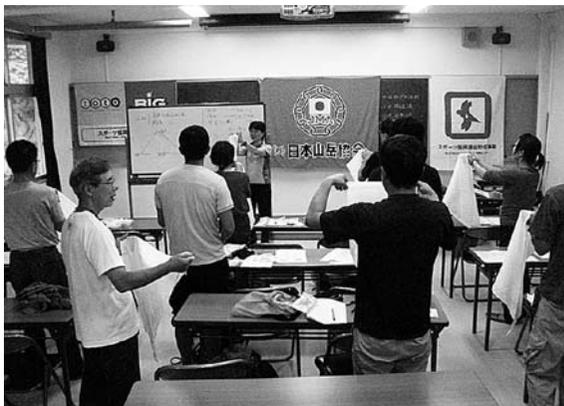
## 無雪期レスキュー講習会（東部地区）を開催 toto 助成を受け登山研で実施

平成22年度無雪期レスキュー講習会が9月10日（金）～12日（日）富山県の国立登山研修所で行われた。昨年からtotoの助成を受け、縦走・ハイキング、クライミングセルフレスキュー、クライミングチームレスキューの3コース24名の受講者で行われた。若い受講者も多く参加し、真剣かつ活気のある講習会となり、レスキュー技術の習得・研鑽に取り組んだ。

縦走・ハイキングコースは主任講師を瀬藤常任委員が務め、受講者は15名であった。10日のセルフレスキュー概論の講義の後、11日は補助ロープの活用方法の実技、模擬登山道での活用練習を行った。午後には搬送法や救急法の実技として止血、捻挫の処置などの応急手当を行い、12日は負傷者の搬送方法と事故発生シミュレーションを行った。

クライミングセルフレスキューは石田常任委員が主任講師を務め、受講者は3名であった。3名の受講生にレベル差があり、2つに分けて講習が行われた。アンカーの作り方や基本的なノット、流動分散、懸垂下降時のワンターンによる制動の実態、自己脱出、自己吊り上げ、リードビレイからの自己脱出、背負い振り分け搬送などを行った。クライミン

グチームレスキューは町田常任委員が主任講師を務め、受講者は6名であった。消防の方が3名だったので基本技術のおさらいの後、まっすぐ上、あるいは下へのローワーダウン、ライジングだけでなく実態に即したななめ上へのライジングなどレベルの高いレスキュー技術を研修した。クライミングはいずれもマンツーマンに近い形で実施されたため中身の濃い実践的な講習であった。今回は若手の男女の参加があり、受講者が積極的に実技に取り組むなど覇気のある講習となった。（遭難対策委員長 西内 博）



日時 8月4日(水)17:30～  
場所 岸記念体育会館103会議室  
出席者 田中会長、内藤副会長、  
粟飯原副会長、本木副会長、西  
内、佐藤、堀井、尾形、相良、  
寺内、長谷川各常務理事  
委任 神崎副会長、仙石、高山、  
青木、北山、永井、谷口常務理  
事(18名中11名出席)

### 1.専門委員会動静

7月常務理事会以降  
(7月9日～8月3日)

#### [報告]

#### (1)海外委員会

7月13日(火) 出席者10名  
ア 「ザ・植村直己デー」(7/24)  
の開催準備について  
イ 「ザ・エクスペディション・デー」  
(9/11)の開催内容について  
ウ 「ザ・ヒマラヤ・デー」(12/5)  
の開催内容について  
エ 次回JACとの合同委員会  
(8/27)について

#### (2)普及委員会

7月15日(水) 出席者7名  
ア 「みんな集まれ!ジュニア登  
山教室」の開催準備について  
・準備状況について(申込者31名)  
・雑誌に掲載したので締め切りを  
7月20日とする  
・スタッフの役割分担、しおり、  
名札の作成

#### (3)広報委員会

7月15日(水) 出席者7名  
ア 登山月報8月号の編集につい  
て  
イ HPについて  
・各委員会専用ページを作成でき  
るように準備中  
・アクセス制限を設ける予定  
ウ リーフレット

写真を選定しなおして8月の常  
務理事会に提案

#### (4)競技委員会

7月15日(水) 出席者11名  
ア 7月常務理事会報告

イ JOCジュニアオリンピック  
カップの進捗状況について  
ウ 全国ルートセッター研修会の  
進捗状況について  
エ 第1回ブラインド・クライミ  
ング世界選手権について  
オ リード・ワールドカップ  
2011印西大会について  
カ 第1回全国高校生クライミン  
グ大会の準備状況について  
キ 第65回千葉国体組合せ抽選  
会(9/5)について  
ク 後催県の準備状況について  
(5)自然保護委員会  
7月20日(火) 出席者16名  
ア 自然保護委員総会(9/11～  
12)の取組みについて  
イ 第1回自然保護委員研修山行  
報告  
ウ 自然保護指導員の登録(更新・  
新規)について  
エ 50周年記念事業の取組みに  
ついて  
オ トレイルラン他の対処につい  
て  
カ 野生鳥獣目撃レポートについ  
て  
キ 自然保護委員会の構成を考え  
る取組みについて  
ク 高所(山岳)トイレの取組み  
について  
・山岳トイレ補助金制度廃止に対  
する意見書の採択  
(6)遭難対策委員会  
8月1日(日) 出席者14名  
ア 無雪期セルフレスキュー講習  
会について  
岩場のセルフレスキューを基礎  
と応用に分け、全部で4チーム  
とする  
イ 英国現地調査  
の秋への延期に  
ついて  
(7)指導委員会  
8月2日(月) 出席  
者9名  
ア 7月の議事録  
確認  
イ スポーツクラ  
イミング上級指  
導員養成講習  
会(6/19～20、

### 【50周年記念募金協力者ご芳名】

(8月19日現在)

10口:長野県山岳協会、6口:光畑正夫、  
青沼武三、5口:吉岡洋三、4口:小林次郎、  
多摩雪雄、羽野順一、堀井啓介、首藤宏史、  
仙石富英、嶋田淳、3口:森本辰雄、2口:  
荒木浩二、山本久子、村川吉徳、二本木清、  
佐藤秀祐、小野寺盛栄、岩尾香三、阿地  
政美、勝部憲二、小川子野、赤塚徹、天  
津邦之、上島昌之、矢羽タ昭夫、横元明、  
太田忠行、金澤鉄造、西田六助、宮本義  
彦、西田均、1口:山田信一郎、森下立招、  
山口裕稔、片山春雄、宮西博、勿来岳友会、  
館岡昭蔵、玄梅正明、山口勝久、田中幸雄、  
花岡勉、三尾敦、大西浩  
総額:522口・261万円

### 山梨・小瀬)

主任検定員:矢荏誠司  
上級指導員:高橋政男、小沼拓也、  
小宮山稔、辻敏夫  
(以上合格)保留:4名  
ウ 講師養成講習会について  
8/21～22 丹沢・山岳スポーツ  
センター  
エ 登山技術研修会(富山)につ  
いて  
オ 常任委員研修会について  
9/11～12 丹沢・山岳スポーツ  
センター  
カ スポーツクライミング上級指  
導員養成講習会について  
福井:10/9～11、井納・競技2  
名  
宮城:10/16～18、永井・競技  
2名  
キ 義務研修一覧について  
ク 指導者養成講習会認定申請  
指導員:中島義政(愛知)  
上級指導員:石原博之(愛知)  
(以上、認定)

## ネパールに行くなら、 風の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構え  
ています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

**株式会社 風の旅行社**  
観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員  
総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山  
〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.0ビル 6F  
TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174  
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F  
TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail [info@kaze-travel.co.jp](mailto:info@kaze-travel.co.jp)

# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、  
年間遭難者数は約2,000人です。

## ■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → [www.jma-sangaku.org](http://www.jma-sangaku.org)

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707  
TEL：03-5958-3396 FAX：03-5958-3397  
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ケ スポーツライミング主任検  
定員の可否結果について  
調査して回答する

## 2.その他の重要事項

(7月9日～8月3日)

### [報告]

- (1)山岳4団体懇談会 7月9日(金)  
於：JACルーム 田中会長、  
本木副会長、尾形常務理事
- (2)山岳共済打合わせ 7月12日  
(月) 於：事務局 瀬田、尾形常  
務理事
- (3)平成22年度全国山岳遭難対策  
協議会 7月16日(金)  
於：国立オリンピック記念青少  
年総合センター 内藤副会長、  
尾形常務理事、中川事務局員
- (4)「山はみんなの宝！全国集会」  
7月22日(木)  
於：TKP虎ノ門ビジネスセン  
ター 田中会長、本木副会長、  
長谷川常務理事、松隈常任委員
- (5)50周年記念事業「ザ・植村直己・  
デー」 7月24日(土)  
於：学術総合センター・一橋記  
念講堂 田中会長、青木、尾形  
常務理事、浅野、藤田、笹生常  
任委員
- (6)アスレティックトレーナー連絡  
会議 7月24日(土)  
於：岸記念体育会館 中川事務  
局員
- (7)会長選考調整会議 7月27日  
(火) 於：岸記念体育会館 内藤  
副会長、岡本選考委員長、小島  
選考委員、尾形常務理事
- (8)神奈川岳連懇談会 7月29日  
(木) 於：かながわ県民サポー  
トセンター 内藤副会長、尾形常  
務理事
- (9)遭難対策常任委員夏山研修会

7月31日(土)～8月1日(日)  
於：国立登山研修所 西内常務  
理事ほか常任委員  
(10)NHKニュースウォッチ9の取材  
8月2日(月)  
於：事務局 尾形常務理事

## 3.議事

- (1)平成22年度7月常務理事会議事  
録の承認について(承認)
- (2)平成22年度補正予算について  
(各専門委員からの補正案を9  
月の常務理事会までに提出する  
ことで承認)
- (3)50周年記念功労者表彰につ  
いて(提案通り承認)
- (4)報告事項  
ア 会計月次報告  
イ 50周年記念事業について  
ウ 叙勲候補者の推薦の辞退につ  
いて  
エ 国体功労者表彰対象者の推薦  
団体の変更について  
オ 共済会の入会状況について  
カ 選手派遣結果報告  
キ 平成22年度山岳遭難救助研  
修会の開催について  
ク 平成22年度安全登山普及指  
導者中央研修会の開催について  
ケ 公益社団法人移行認定への進  
捗状況について  
コ 日山協リーフレットのデザイ  
ンについて

## 4.役員等の派遣について

- (1)第6回JOCスポーツと環境・地  
域セミナー 9月3日(金)  
於：横浜市開港記念会館 尾形  
常務理事
- (2)第65回千葉国体組合せ抽選会  
9月5日(日)  
於：岸記念体育会館 内藤副会

- 長、高山常務理事
- (3)日本山岳写真協会写真展の表彰  
式・祝賀会 9月5日(日)  
於：ホテル「はあといん乃木坂」  
田中会長
  - (4)山岳レスキュー講習会(東部地  
区) 9月10日(金)～12日(日)  
於：国立登山研修所 西内常務  
理事
  - (5)50周年記念事業「The Expedition  
Day」 9月11日(土)  
於：国立オリンピック記念青少  
年総合センター 内藤、神崎副  
会長、青木、尾形、常務理事
  - (6)自然保護委員総会 9月11日  
(土)～12日(日)  
於：新潟県柏崎市「じょんのび  
温泉施設」 田中会長、本木副  
会長、長谷川常務理事
  - (7)50周年記念事業・三大峠トレッ  
キング説明会 9月15日(水)  
於：風の旅行社 尾形常務理事
  - (8)平成22年度中高年安全登山指  
導者講習会(西部地区) 9月  
24日(金)～26日(日)  
於：広島・国立公園宮島弥山周  
辺 栗飯原副会長、仙石常務理  
事

## 5.後援、協賛等の依頼について

- (1)第26回かながわ県民登山(ハ  
イク)の後援名義(承認)
- (2)2010スポーツライミング・  
四国ジュニアカップの後援名義  
(承認)

## 6.報告

- (1)自然保護指導員の承認  
三重 7名
- (2)指導員の認定承認  
①上級指導員  
(スポーツライミング)

## 寄贈図書

### ●寄贈本●

(株)日本山岳会 Japanese Alpine News  
大韓山岳連盟  
KOREAN MOUNTAINEERING ANNUAL 2010

### ●雑誌●

東京新聞出版局 岳人 9月号

山と溪谷社 山と溪谷 9月号  
中国登山協会 山野 8月号

### ●会報●

兵庫県山岳連盟  
財健康体力づくり事業財団  
新潟県山岳協会  
国立スポーツ科学センター  
大韓山岳連盟  
財全日本ボウリング協会

(財)日本ボートボウリング連合  
新潟県山岳協会

FEEC  
(財)日本武術太極拳連盟  
(財)日本体育協会  
シマノ  
日本勤労者山岳連盟  
三峰山岳会  
FEDME  
財大阪市スポーツ・みどり振興協会

(株)日本山岳会  
東京野歩路会  
横浜山岳会  
近畿山岳愛好会  
福岡山の会  
愛知県山岳連盟  
やまびこ山想会  
Korean Alpine Club  
新潟県山岳協会

# 第1回スラインド・クライミング世界選手権2010

●大会概要 2010年12月4日(土)～12月5日(日)

会場 習志野市東部体育館  
 千葉県習志野市東習志野3丁目4番5号 TEL: 047-493-7900

主催 I F S C(国際スポーツクライミング連盟)、(社)日本山岳協会

後援 千葉県、習志野市、毎日新聞社ほか

協力 モンキーマジック

日程

【12月4日】  
 オンサイト予選  
 (ナビゲーターによる指示つき)  
 ルート手直し(オンサイトの状況により)  
 ワークアウト練習(一人20分×20名)

【12月5日】  
 オンサイト決勝  
 エリック・ヴァインマイヤー講演会  
 (2時間、通訳付)(予定)  
 ワークアウト決勝(全員、指示なし)  
 表彰式・パーティ

成功させよう  
JMA50周年記念



## 記念グッズのご案内



(社)日本山岳協会では創立50周年を記念したロゴ入りTシャツをつくりました。  
 ご希望の方には実費頒布しています。  
 色は6色(以下の画像を参照ください)、サイズはLL、L、M、Sの4種です。  
 Tシャツの頒布代金は各色・各サイズとも、1枚2,000円です。日山協のHPからも購入できます。(注:お届けの送料は日本山岳協会が負担します)

# 海外登山クロニクルトークショー 秋編 TheHIMALAYADay 過去の卓越した登山隊の報告トーク

●概要 2010年12月5日(日) 13時30分～17時

場所 国立オリンピック青少年センター(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

主催 (社)日本山岳協会、(社)日本山岳会

後援 毎日新聞社

主管 (社)日本山岳協会国際委員会、(社)日本山岳会海外委員会  
 ・基調トーク: 平井一正、大宮求、重廣恒夫、田辺治、中世古直子

高橋政男、小沼拓也、小宮山稔、辻敏夫  
 (アルパインクライミング)  
 石原博之(愛知)  
 ②指導員  
 (スポーツクライミング)  
 中島義政(愛知)  
 ③主任検定員  
 (スポーツクライミング)  
 矢在誠司

## 編集後記

中秋の名月の日に関東は猛暑日の記録更新、片や北海道旭岳からは雪の便りが届き、一足飛びに冬到来の予感が、...。10月2日から国体山岳競技が千葉県印西市で開催されます。新築の体育館は冷暖房完備、全国からの精鋭の熱戦が期待されます。

(広報 本木 総子記)

## 登山月報 第498号

定価 100円(送料別)  
 予約年間1、200円送料共  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月一回15日発行)

発行日 平成22年8月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1  
 岸記念体育会館内  
 社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS ASG-10** 販売価格 18,900円(税込)

### 正確な位置情報があなたを助ける!

- 3つのセンサー(加速度・方位・気圧)で正確な位置・移動情報を表示
- 事前プランニングで楽しさ倍増!
- 軌跡表示で目的地に誘導
- 23種の多彩な表示項目



株式会社 ユピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33

TEL 03-3769-2525 FAX 03-3769-2520  
お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで

<https://atlas.yupiteru.co.jp>

※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。

## 積雪期レスキュー講習会(西部地区)の予告

日時: 平成23年1月29日(金)～31日(日)

場所: 富山・国立登山研修所

内容: ①クラス1(雪質観察、ビーコン基本操作、雪崩の予防、シェルター、低体温症)

②クラス2(事故発生から搬出までのレスキュー技術、低体温症)

なお、クラス2はロープワークを含む基礎技術習得済みの方を対象とします